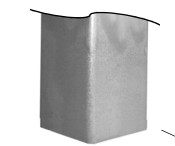
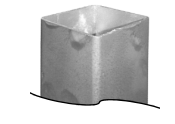


100角鋼管を使って強力なサポートができます。

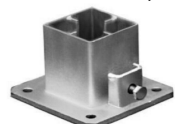
〈ベースホルダー〉  
SR-120



〈100角パイプ〉  
STKR-400 100×100×3.2



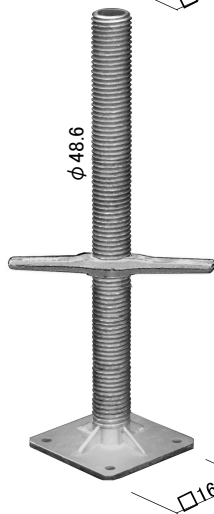
〈ベースホルダー〉  
SR-120



〈ライトジャッキ〉  
SR-600

調節範囲  
h=80~520mm

アルマシステム  
スクリージャッキも  
使用できます

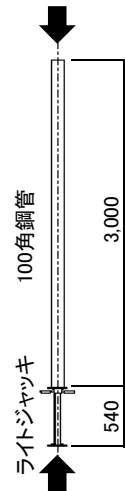


◆ 荷重試験

3mの100角鋼管の下端に540mmのライトジャッキをセットして圧縮試験を実施

供試体	強度(kg)	備考
①	17,750	ライトジャッキの曲り
②	20,300	"
③	20,900	"
平均	19,650	

安全率 2 を考慮して、許容荷重は  
 $1/2 \times 19,650 = 9,825 \text{ kg}$   
 → 9,500 kg



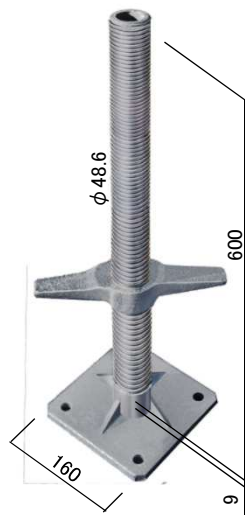
◆ 許容荷重

3.0mの鋼管を用いた場合の仕様荷重は安全率を2として9500kgとする。これは、試験の結果をみると、ライトジャッキの強度と考えられる。使用する鋼管の許容座屈強度を計算し、強度が9500kgを上回るものは9500kgを使用荷重とする。9500kgを下回るものは、許容座屈荷重を使用荷重とする。座屈の計算はジャッキ分を見込んで鋼管長に500mmを加えて計算する。

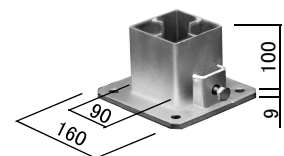
鋼管長(m)	座屈長(m)	許容座屈荷重(kg)	許容荷重(kg)
3.0	3.5	12,542	9,500
3.5	4.0	10,832	9,500
4.0	4.5	9,122	9,100
4.5	5.0	7,533	7,500
5.0	5.5	6,198	6,100
5.5	6.0	5,192	5,100

ライトジャッキ

SR-600 6.5 kg



ベースホルダー



100角 角丸クランプ

直交 KM-100 1.5 kg



自在 KF-100 1.5 kg



100角鋼管

STKR400-100×100×3.2 溶融亜鉛メッキ

長さ(m)	1.0	1.5	2.0	2.5
品番	100K-1.0	100K-1.5	100K-2.0	100K-2.5
重量(kg)	9.5	14.3	19.0	23.8

長さ(m)	3.0	3.5	4.0	4.5
品番	100K-3.0	100K-3.5	100K-4.0	100K-4.5
重量(kg)	28.6	33.3	38.1	42.8

長さ(m)	5.0	6.0	7.0	8.0
品番	100K-5.0	100K-6.0	100K-7.0	100K-8.0
重量(kg)	47.6	57.1	66.6	76.2

アルミ合金製の支柱材に鋼製のジャッキの組合せで、軽量で高強度のサポートです。

特長

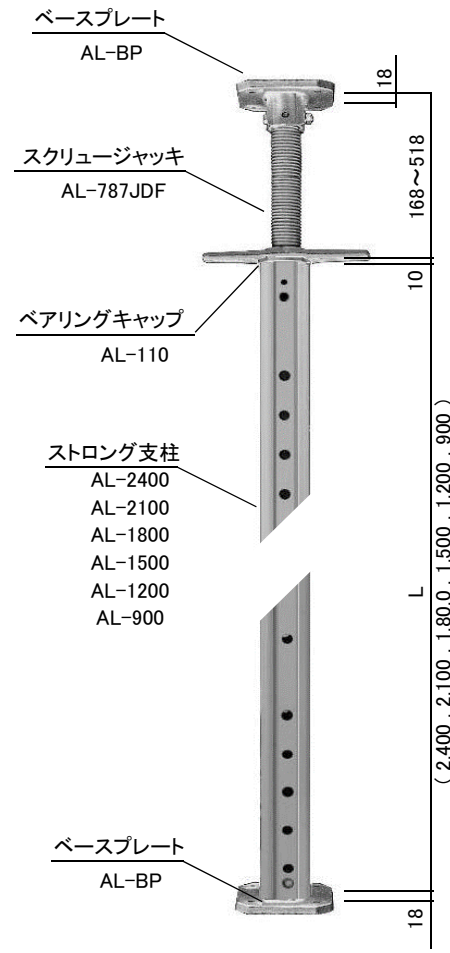
〈軽い〉

取扱いが楽で、作業性に優れます。耐力が高く、支柱の本数が少なくなります。

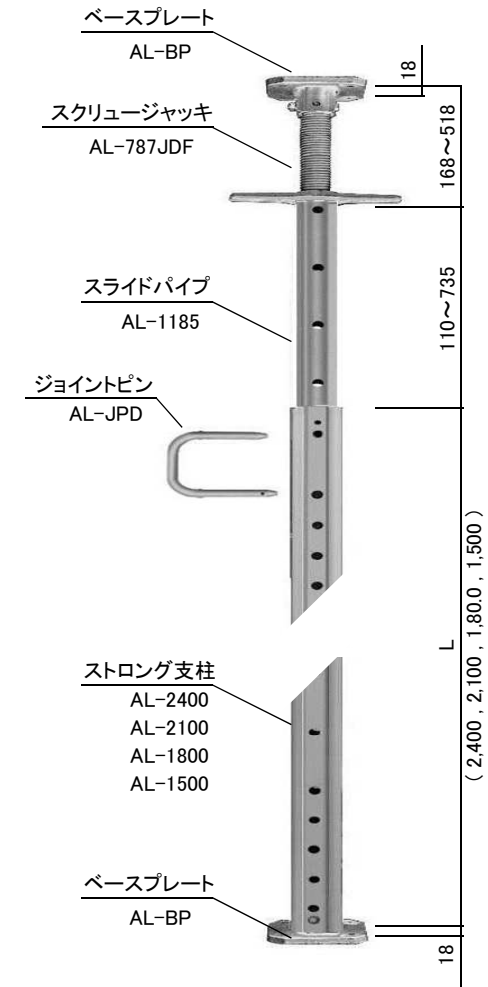
〈強力〉

軽く、本数が少ないために転用性に優れ、作業コストの低減につながります。

ストロング支柱  
+ スクリュージャッキ



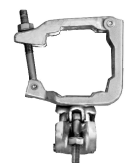
ストロング支柱  
+ スライドパイプ  
+ スクリュージャッキ



アルマクランプ

ストロング支柱用 1.0 kg

直交 KM-88D



自在 KF-88D



スライドパイプ用 1.0 kg

直交 KM-67D

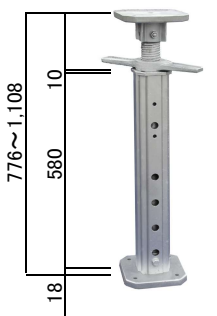


自在 KF-67D



免震梁用サポート

AL-776B 11.6 kg



支柱	使用長	許容荷重	支柱	使用長	許容荷重
AL-2400	2,596~2,946	54.0 kN	AL-2400	2,871~3,500	54.0 kN
AL-2100	2,296~2,646		AL-2100	2,571~3,371	
AL-1800	1,996~2,346		AL-1800	2,271~3,071	
AL-1500	1,696~2,046		AL-1500	1,971~2,771	
AL-1200	1,396~1,746				
AL-900	1,096~1,446				

許容荷重は上下ベースプレートの場合です。

下記の場合は許容荷重が変わります。詳しくはアルマシステムの「使用基準・許容荷重」を参照願います。

- 上端に大引材を使用する場合。
- スライドパイプを735mm以上伸ばした場合。
- スクリージャッキを上下に使用した場合。
- 使用長が3.5mを超える場合。